令和５年２月

令和４年中における山岳遭難の概況

静岡県警察本部

地域部地域課

1　令和４年中における静岡県内の山岳遭難発生状況

(1) 統計資料等

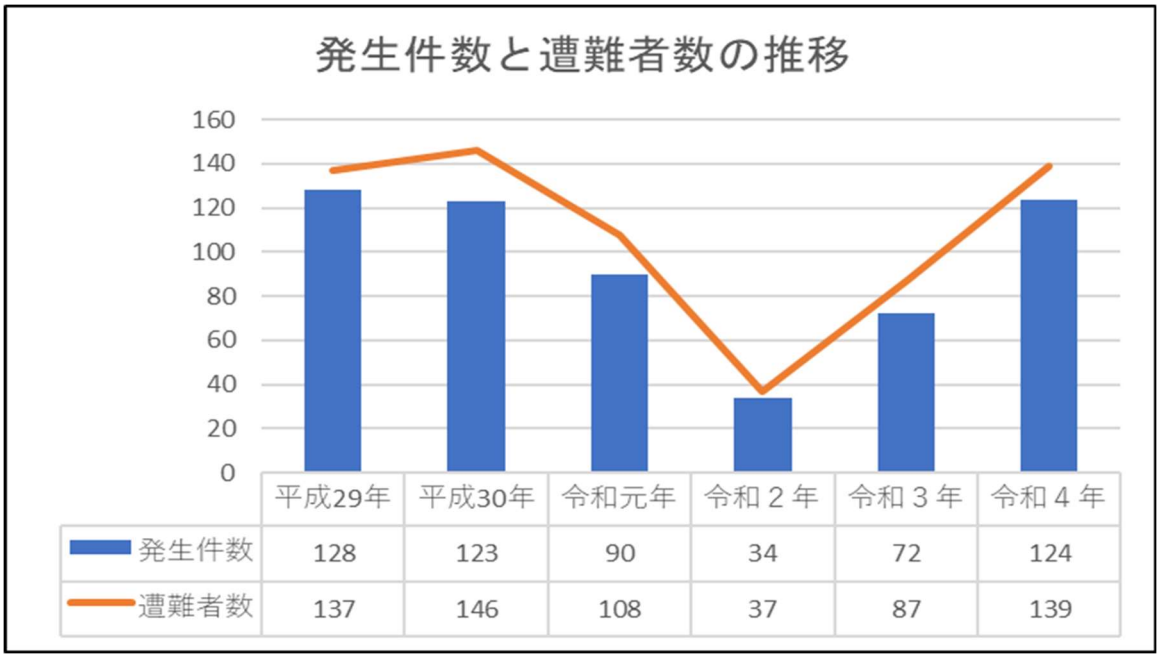
ア　発生件数等

区　分	発生件数	遭難者数	死　傷　別				
			無事救助	負　傷		死　亡	行方不明
				軽　傷	重　傷		
令和４年	124(＋52)	139(＋52)	93(＋44)	14(－１)	22(＋5)	10(＋5)	０(－1)
富士山	56(＋34)	59(＋36)	45(＋35)	５(－１)	５(－1)	４(＋3)	０(±0)
南アルプス	８(＋５)	８(＋５)	２(＋１)	３(＋３)	２(±0)	１(＋1)	０(±0)
その他	60(＋13)	72(＋11)	46(＋８)	６(－３)	15(＋6)	５(＋1)	０(－1)

括弧内は前年同期比

イ　過去(平成 29 年～令和４年)の発生状況

区　分	発生件数	遭難者数	死　傷　別				
			無事救助	負　傷		死　亡	行方不明
				軽　傷	重　傷		
令和４年	124	139	93	14	22	10	0
令和３年	72	87	49	15	17	5	1
令和２年	34	37	20	4	3	9	1
令和元年	90	108	63	15	24	5	1
平成30年	123	146	80	35	17	11	3
平成29年	128	137	73	30	25	7	2



ウ　山系別発生状況

区　分		発生件数	遭難者数	死　傷　別				
				無事救助	負　傷		死　亡	行方不明
					軽　傷	重　傷		
合　計		124	139	93	14	22	10	0
富士山		56	59	45	5	5	4	0
南アルプス		8	8	2	3	2	1	0
そ　の　他		60	72	46	6	15	5	0
	安倍山系	5	5	2	2	0	1	0
	天城山系	11	15	13	0	2	0	0
	愛鷹山系	4	5	4	0	1	0	0
	天子山系	4	4	1	0	3	0	0
	北遠山系	0	0	0	0	0	0	0
	奥大井山系	0	0	0	0	0	0	0
	その他	36	43	26	4	9	4	0

エ　態様別発生状況

	発生件数（件）	遭　難　者　数（人）						山　系　別（人）		
		計	無事救助	軽傷	重傷	死亡	行方不明	富士山	南アルプス	その他
合　計	124	139	93	14	22	10	0	59	8	72
滑落・転倒等	41	43	0	14	22	7	0	13	5	25
道迷い	36	49	49	0	0	0	0	7	1	41
疲　労	24	24	24	0	0	0	0	22	0	2
病　気	16	16	15	0	0	1	0	13	1	2
その他	7	7	5	0	0	2	0	4	1	2

態様その他～濃霧による行動不能、装備不備による行動不能（ヘッドライトなし又は点灯しない、靴擦れ、飲み水を使い切る）、原因不明等

オ　年齢層別発生状況

	遭　難　者　数（人）						山　系　別（人）		
	計	無事救助	軽傷	重傷	死亡	行方不明	富士山	南アルプス	その他
合　計	139	93	14	22	10	0	59	8	72
10歳未満	2	1	1	0	0	0	0	0	2
10 ～ 19	1	0	0	1	0	0	0	0	1
20 ～ 29	17	15	1	0	1	0	15	0	2
30 ～ 39	8	5	1	2	0	0	5	1	2
40 ～ 49	15	8	2	2	3	0	5	2	8
50 ～ 59	27	19	1	6	1	0	9	1	17
60 ～ 69	37	20	6	8	3	0	11	3	23
70 ～ 79	28	22	2	2	2	0	12	1	15
80歳以上	4	3	0	1	0	0	2	0	2

カ　居住地別発生状況

	遭　難　者　数（人）						山　系　別（人）		
	計	無事救助	軽傷	重傷	死亡	行方不明	富士山	南アルプス	その他
合　計	139	93	14	22	10	0	59	8	72
静 岡 県	51	29	7	10	5	0	10	4	37
県外居住	88	64	7	12	5	0	49	4	35
国外居住	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 傾向と特徴

ア 発生傾向

令和４年は、富士山や南アルプスの山小屋がほぼ平年どおりに営業されたことから登山者が増加し、山岳遭難もコロナ禍以前の水準で発生した。

年間の発生件数は 124 件(前年比＋52 件)、遭難者数は 139 人(同比＋52 人)、死者は 10 人（同比＋５人）であり、いずれも前年より大幅に増加した。

山系別では富士山が 56 件 59 人（死者４人）と最も多く、南アルプスでは８件８人（同１人)、その他の山系が 60 件 72 人（同５人）であった。

また、態様別では滑落・転倒等が 41 件 43 人、道迷いが 36 件 49 人、疲労が 24 件 24 人などであった。

イ 山系ごとの特徴

- 富士山 59 人（約 42%）
  疲労 22 人、病気・その他 17 人、滑落・転倒等 13 人、道迷い７人
- 南アルプス８人（約６％）
  滑落・転倒等５人、病気・その他２人、道迷い１人、疲労０人
- その他 72 人（約 52%）
  道迷い 41 人、滑落・転倒等 25 人、病気・その他４人、疲労２人

ウ 遭難の特徴

- 装備不備等による行動不能が多発
  ヘッドライトなし又は点灯しない、靴擦れ、飲み水を使い切る等
- 下山中の行動不能が多発
  遭難者数 139 人のうち、下山中の遭難が 105 人（75.5%）
- 高齢者の遭難が多発
  60 歳以上の遭難者が 69 人（約 50%）富士山での「疲労」は大半が高齢者
- 居住別では県外者が過半数
  県外者が 88 人（約 63%)、静岡県内者が 51 人（約 37%）

２　山岳遭難の防止対策

山岳遭難の多くは、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備、さらには、体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力等の準備不足が原因で発生していることから、以下の点に留意し安全な登山に心掛けてください。

(1) 登山計画書の作成と万全な装備品の準備

事前に気象条件や自己の登山経験、体力、技術等に見合った山を選択し、登山日程や携行する装備品、食料等に配意した安全な登山計画を作成しましょう。

登山ルートは、滑落等の危険箇所やトラブル発生に備えて途中から下山できる

ルート（エスケープルート）等を事前に把握しておくことが大切です。

また、登山予定の山に見合った服装や登山靴、雨具（レインウェア）、落石や滑落・転落時に頭部を守るためのヘルメット、地図、コンパス、行動食等登山に必要な装備品や、万一遭難した場合に備え、助けを呼ぶための連絡用通信機器（携帯電話、無線機、予備バッテリー等）やツェルト（簡易テント）、非常食等を準備するなど、装備を万全に整えましょう。

なお、単独登山は、トラブル発生時の対処がグループ登山に比べて困難になることが多いことを念頭に、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努めましょう。

(2) 登山計画の共有

登山計画は、家族や職場等と共有しておくことにより、万一の場合には素早い捜索救助の手掛かりとなるほか、計画に不備がないか事前に確認するものであることを意識付け、作成した登山計画書は、一緒に登山する仲間と共有すると共に、家族や職場、登山口ポストなどに提出しておきましょう。

なお、登山アプリ、インターネットなどを通じて登山計画を作成し、家族、友人及び警察と共有することも効果的です。

※　登山計画書は、インターネットから以下の方法でも提出可能です。

・静岡県公式ＨＰ「ふじのくに電子申請サービス」
・公益社団法人日本山岳ガイド協会電子登山届「コンパス」
・登山アプリへの登山計画の登録

(3) 道迷い防止

地図やコンパスのほか、ＧＰＳ機器やスマートフォンなど位置情報を取得することが可能な登山アプリ等を活用して、常に位置情報を把握して道迷いの防止に留意しましょう。（バッテリーの消耗に注意：予備バッテリーを必ず携行！）

また、スマートフォンでの１１０番や１１９番通報は、公的救助機関に正確な位置情報を提供できる可能性が非常に高まります。

(4) 滑落・転落防止

無積雪期はグリップが効く登山靴を、積雪期はやアイゼン、ピッケル等の装備を、登山の状況に応じて的確に使いこなし、気を緩めることなく常に慎重な登山に心掛けましょう。

また、滑落・転落する恐れがある場所を通過するときは、上方からの落石に備え、必ずヘルメットを着用しましょう。

(5) 的確な状況判断

濃霧や悪天候による視界不良や体調不良時には、正規の登山ルートを見失ったり、行動不能や滑落等の危険が高まります。

特に、天候状況が登山に適さないと判断したら安全な場所に引き返したり、入山を控えるなど「引き返す勇気」や「登山の中止・延期」を選択し、遭難の未然防止に努めましょう。

登山における悪天候は、雨はもちろん強風等の場合も考えられますので、天気図を確認することも大切です。

以　上

担当（静岡県警察本部
地域部地域課山岳遭難救助隊）